



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

医学部 教授（予防医療センター）

岩男 泰

便に血が混じったら？—大腸の病気の基礎知識—

人間をはじめとする動物は、口から摂取した食物を消化して栄養や水分を吸収し、不要になったものを肛門から廃棄する営みを毎日繰り返しています。人間が生きていくために必要な、最も基本的な臓器が消化管です。表面の粘膜を広げるとテニスコート1.5面分にも及び、広い面積で外界と接し、常にさまざまな外来抗原や化学物質にさらされています。消化管は、がんや感染症、免疫異常を起す危険性が最も高い臓器と言えます。

消化管の中で最後の部分、水分を吸収して便をかたちづくってうまく排泄するための臓器が大腸です。従って大腸に異変が起これば便の性状に変化が現れます。軽い便秘や下痢など日常よく見られるありふれた症状をそんなに心配する方はいないと思いますが、排便時に血液が混じっていたら、どうでしょう。

便に血液が付着する場合、いかにも血

液といった鮮血は肛門に近いところからの出血であり、ほとんどが痔核じかくと考えてよいでしょう。急な下痢、腹痛、発熱などを伴う血便は感染性の腸炎を考えます。最近食べた食物に心当たりがないか振り返ってみてください。また、ある日突然腹痛に見舞われた後に下痢になり、続いて血便を認めた場合は、**虚血性大腸炎**の可能性があります。これは一過性の血流障害によって起こる疾患で、動脈硬化のある高齢者によく見られますが、便秘などで大腸の腔内圧が上昇したときにも生じます。よほど重症でなければ保存的に治癒します。

一方、慢性的に血便が見られる場合は、**潰瘍性大腸炎**に代表される炎症性腸疾患を疑います。潰瘍性大腸炎は若年者に好発する原因不明の疾患で、大腸の粘膜が傷つき出血（粘血便）、腹痛、下痢が生じます。専門医による治療が必要です。

それでは大腸がんは血便で見つかるの

でしょうか。肛門に近い直腸のがんの場合は痔疾のように血液が付着することがありますが、無症状のことがほとんどです。大腸がんのスクリーニングには便潜血反応という検査を行います。便に混入した目に見えないレベルの血液を感知するものです。便潜血反応が陽性と判定されたり、血便などの症状があるときは大腸内視鏡検査による精密検査が必要です。実際には、下剤による前処置のわずらわしさや、検査そのものに対する羞恥心があるためか、大腸内視鏡検査による精密検査の受診率は低く、残念ながら先進国の中では最低です。大腸がんは生活環境の変化、食習慣の変化を反映して近年増加し続けており、2005年以降女性のがんの死亡原因の第1位になっています。ちなみに男性では2007年以降第3位です。ぜひ、勇気を出して積極的に検診をお受けになるようおすすめします。

※生体に免疫反応を起させざる物質のうち、体外からもたらされるもの。例えば、花粉症や食物アレルギーなどを引き起す原因物質もその一つ。